大学ラグビー雑感

（第 50 回全国大学ラグビーフットボール選手権大会　決勝　帝京大学 vs 早稲田大学）

大学ラグビー決勝戦帝京 vs 早稲田をテレビ観戦しました[*1]。両チーム善戦後半の攻防は立派なものでした。選手たちの力と技は見ごたえのあるものでした。そしてラグビーの面白さについて次のように思いました。

ゲーム後半の盛り上っていた頃のことです。帝京が早稲田ゴールライン近くへ迫ってから ruck で得たボールを持って、再度 ruck から 5〜6m 位のサイド攻撃を繰り返しました。果敢な突撃を興奮して見た人もいるでしょうが、冷静に考えれば無策であり無謀なことです。身体の大きさや力強さだけを競っている何の興味も湧かないものです。ruck はボールの展開を継続するためのプレーであり、それを保証するために ruck の off-side line が決められているのです。昔は advantage line 即ちボールの線までディフェンスが出られたのです。攻め込んで 22m ラインに入ったら BK は 45 度の深いラインを引いてコーナーフラッグ（dangerous zone）めがけて展開していく躍動的な面白さがありました。tackle は curious situation を作り出します。相手に負けないように頭からボールに飛び込んでいくのでなくもっと curiously に選択肢を拡げて欲しいものです。

scrum では帝京が上方向へ押したという反則で笛を吹かれ、ペナルティーが与えられました。競技規則 20 条 3 項および 20 条 8 項は安全にスムーズに組まれることが目的ですが､何かしっくりしないものが残りました。双方悪意が無く危険性もなかったのでプレーヤーも疑問が残ったのではないでしょうか。Laws は文字面だけではない reasonable を大切にすると言うことを考えました。“crouch”“touch”をコールするレフリーの役割は十分理解出来るのですが 1990 年代の Laws を読み直してレフリーがここまで制御しなくてはならないのかと思っています。

もう一つの蛇足ながら「単位足らず『修行』積む」と題する記事[*2]を読んで学生に相応する学力を修得していない人が多いと言われています。勉強に精を出さない学生スポーツマンに「勉強の方も恥ずかしくないように努力しなさいよ」と改めて言いたくなりました。人間として一芸に秀でることの素晴らしさをもちろん否定するものではありませんが『修行』という言葉を使って大切な事に光を当てていると思いました。

2014.01.25
西川　義行

*1: http://www.rugby-japan.jp/national/score/print/print8510.html
*2:2014 年 1 月 13 日朝日新聞朝刊大阪版より

単位足りず「修行」積む

早大 4 年の黒木は今季、新チーム発足時から夏合宿まで試合出場を一切禁じられていた。理由は、単位が足りなかったから。ラグビー部は後藤監督が就任した昨季、「申請した単位のうち 7 割を取得できなかった部員は練習試合にも出さない」と決めた。黒木は 3 年時、その基準に満たなかった。

20 歳以下日本代表の黒木はチームにとって不可欠な存在。でも、後藤監督は「決まりは決まり」と一番下の E チームに黒木を落とした。早大にはこれまで留年生や卒業できない部員がいた。学校や親を納得させる意味でも、文武両道の旗印を絡げる意味でも、譲れない決断だった。

面白いのは、そこで黒木が腐らず、学ぼうとしたことだ。E チームにはなかなか指導者の目が届かない。だが、同期の 4 年の仲間は上を目指し努力している。「下のやつらがいて、オレがいる、ときれいごとじゃなく実感できた」。その感慨は、この日の体を張ったプレーと無縁ではなかった。「最後にふさわしい試合ができたと思います」（野村周平）